



1994（平成6）年建立「弘前大学医学部発祥之地」の碑
＝2023（令和5）年8月11日・筆者撮影

青森市中央市民センター（青森市松原1丁目）の敷地内に「弘前大学医学部発祥之地」の石碑がある。この場所には1944（昭和19）年から1947（昭和22）年まで弘前大学医学部の前身である官立青森医学

専門学校（以下、青森医専）が置かれていた。戦局の拡大に伴う医師不足を解消することを目的として新設された医師養成学校の一つであった。

青森医専の校舎として使われた建物は開校にあわせ

て建設されたものではなく、1937（昭和12）年に建てられた青森市立野脇国民学校（現在の青森市立堤小中学校）の校舎だった。青森医専の開校に伴い、野脇国民学校は1944（昭和19）年3月に閉校している。附属病院には県立病院（現在の青森市役所本庁舎の位置にあった）をあてた。開校式は1944（昭和19）年5月1日に行われ、12

森市で教育活動を続けるか、弘前市へ移転するかについて議論が重ねられ、最終的に弘前市への移転が決定した。弘前市への移転は1947（昭和22）年3月に完了した。

旧青森医専校舎は1947（昭和22）年4月から1949（昭和24）年3月まで、青森市立野脇中学校（青森市立南中学校の前身校の一つ）の校舎として使用された。野脇中学校は、戦後の新学制発足に伴い開校した新制中学校の一つだった。

また、空襲で校舎を失った青森市立第二中学校も校舎の一部を利用した。同校は1948（昭和23）年に青森市立高等学校と改称。現在の県立北斗高等学校である。

「弘前大学医学部発祥之地」のその後

村上 亜弥

（青森市民図書館
歴史資料室職員）

0人が入学した。専任教員は少なく、他の学校の教員による出張集中講義が多かったという。

1945（昭和20）年7月28日の空襲で附属病院と寄宿舎を焼失したものの、校舎は焼失を免れ、9月28日から授業を再開した。附属病院には旧歩兵第五連隊将校官舎を、寄宿舎には旧歩兵第五連隊兵舎をあてた。

その後、青森医専では青

1947（昭和22）年9月、県立青森高等女学校が火災で校舎を焼失したため、野脇中学校の校舎で授業を行うことになった。一つの校舎を午前中は野脇中学校が、午後は青森高等女学校が、夕方からは第二中学校が利用するという三部授業

が行われたのである。

翌年4月、青森高等女学校は県立青森女子高等学校と改称。その翌年には新校舎へ移転して三部授業が解消した。同校は現在の県立青森高等学校の前身校の一つである。

1949（昭和24）年3月に野脇中学校が新校舎へ移転すると、翌月からは青森市立野脇小学校（現在の青森市立堤小学校）の校舎として使用され、1954（昭和29）年9月からは青森市立松原中学校の校舎となった。そして、1965（昭和40）年3月に松原中学校は閉校し、校舎は解体された。空襲で焼失を免れ、多くの学校が利用した旧青森医専の校舎は、戦後の教育復興の一端を担った建物といえる。

その跡地に青森市の市制70周年を記念して建設されたのが青森市民文化センター（現在の青森市中央市民センター）だ。1969（昭和44）年10月に開館し、現在も青森市民の生涯学習・社会教育活動の場として大きな役割を果たしている。

東京と青森 666号
青森市立大学 2023年10月